施策評価シート (評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 家庭学習の支援	② 施策番号	7402
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	生涯学習課(青少年センター)		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	おおむね18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	おおむね18歳以下の子どもに学習活動の場を提供し、家庭学習の支援をおこなう。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態、今後どのように変化していくと考えられるか)	家庭学習の重要性が認識されており、家庭環境等により家庭学習が困難な児童や自主的な学習の場を求める児童、そしてその保護者への支援が求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 自習室利用者数 計算式	人	家庭学習の支援の場をどれだけ提供できたかがわかる。
② 計算式		
③ 計算式		

指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考	
① 自習室利用者数	人	目標値	500	500	500	500	600	R1から泉南中学校との合築施設になり、中学生の試験前などの自習室利用が増えた。
		実績値	341	327	736	—	—	
		達成率	68.2%	65.4%	147.2%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1 青少年学習活動推進事業	自習室利用者数	人	327	736	—	9,970	8,248	9,262	A	ア	○
2 施設維持管理事業	修繕費	千円	359	318	200	12,014	8,676	8,619	A	ア	
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	2					21,984	16,924	17,881			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	家庭環境等により自宅で学習が困難な青少年のために家庭学習の場を提供することにより、家庭学習の機会が保証され、家庭学習の支援を行うことができる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	自習室利用者数についてはR1年度からは新しい青少年センターとなったこともあり、泉南中学校の生徒利用が増えた。また、中学生の学習会については、青少年センターの場所が信達中学校区に近づいたこともあり、泉南中学校だけでなく信達中学校の生徒も利用しやすくなった。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	中学生向けの事業においては、元教員や学生ボランティアが指導にあたるなどしており、市民の協力をえて実施している。市では生活福祉課がボランティアへの謝礼の支出や生徒の募集などをしており、青少年センターでは自習室を提供し、放課後利用できるよう開館時間を延ばし対応するなど施設面での協力をして、役割分担はできていると考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	自主的学習の支援を行っており、家庭学習の支援という目標にあっており、適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	自主的学習が可能な場合は、多数あるほうが良いと考えるため、重要であるとするが、一方で図書館、公民館等複数あるので最重点の課題ではないとも考える。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	A	家庭学習の支援として大きな役割を担っている。引き続き、自主的学習の支援を行っていく。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	青少年センターにおける自習室利用のPR。児童館利用児童に対し、宿題を自習室ですることができる旨の声掛けなど、利用の定着を目指す。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	利用の状況を見極め、運営委員会委員に助言や意見をいただきながら、施設の大きさの問題もあるため、他の施設との連携など事業の拡大等に向けた検討を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	あり方基本方針を踏まえ、今後の事業のあり方を検討する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	自習室の利用を通じた家庭学習支援が適切に行われている。 家庭学習の支援の推進にあたり、関係機関との連携や他施設の活用など今後の展開に向けた検討を進められたい。	